

**週刊 タバコの正体**

コチニン濃度と同居家族の喫煙状況

コチニンの尿中濃度 (1ミリリットル当たり)  
5ナノグラム未満 ▶ 1500人  
5ナノグラム以上 ▶ **65人**

同居家族の喫煙状況



(2021年度、千葉市の小4を対象に調査)

東京新聞「くらし」サイトから

喫煙者がいる家庭では、タバコを吸わない家族が受動喫煙をしてしまう機会が多くなります。とりわけ乳幼児や子供がいる場合はその影響をうけやすくなります。

その影響度を調査した結果が左図のグラフです。タバコの煙に含まれるニコチンは体内で“コチニン”という物質に変化して尿中に排出されるので、尿中のコチニン濃度を調べると、受動喫煙の程度がわかるわけです。千葉市内で行われた調査では1500人の児童のうちコチニンの濃度が高かったのは65人で、そのほとんどが同居家族に喫煙者がいたという結果だったそうです。喫煙者がいる家庭の子供たちは、ほぼ確実に受動喫煙の影響を受けているのです。

子供は大人に比べ呼吸数が多いため体重当たりの煙を吸い込む量は多くなるので、成長過程の未熟な身体には受動喫煙の影響は大きいと考えられます。その結果、気管支ぜんそくや気管支炎、中耳炎、肺炎などのほか、妊娠中の母親による喫煙は乳幼児突然死症候群を引き起こす恐れもあると言われています。

**非喫煙者** 「受動喫煙」や「サードハンドスモーク」により、こんな病気のリスクにも

冠動脈疾患	COPD (慢性閉塞性肺疾患)
肺がん	ぜんそく
脳卒中	肺機能低下
副鼻腔がん	流産・早産・低出生体重児など妊娠に関する異常
乳がん	など

**特に子供が危険**

SIDS (乳幼児突然死症候群)
中耳疾患
呼吸器症状
肺機能の低下
脳腫瘍
リンパ腫
ぜんそく
白血病

など

他人の煙を吸う **受動喫煙**

煙がなくなっても壁や衣類などに付着した有害物質を吸う **サードハンドスモーク (残留受動喫煙)**

ついこの間まで子供だった皆さんの多くは、いつか家庭を持つときが来るでしょう。その時、「やめたいけど、やめられない」ニコチン依存症になっているのは、大切な子供がかわいそうですよね。

だから、将来のためにもタバコに手を出してはいけません。